



生活活動の観察の 視点

「因子分解」手法による洞察分析

- ケアプラン作成時の理念として、**自立支援を阻害している要因**は何かという点を徹底的に検討することを重要視します。
- 常に**改善の可能性を追求**する姿勢をもち、単に追認したり放置してしまうといった姿勢はなく、常に改善の可能性を追求します。
- **高齢だから仕方がない 本人のやる気がないからと片付けない。**

「因子分解」手法による動作分析

自分で買い物にいけない



「個人的因子」

買い物に行く体力が減退している
認知機能の低下により買い物ができない

「環境的因子」

近隣に商店がない
買い物に行く交通手段がない

最も効果的と考えられるアプローチを探っていく



因子分解とは

- 活動はいくつかの動作の組み合わせで成り立っています
- この組み合わせをばらしたのが、因子分解です

ニーズ・課題について

- 「清潔を保持できない」状況
⇒一人で入浴できない。リスクが高い

何で、一人で入浴ができないの？

これが
課題！

個人的因子：本人に関すること
右麻痺 脳梗塞2回繰り返している

環境的因子：家族や地域、住環境等
独居、支援者なし、自宅の浴室は段差が多い・・・等

自立支援型プラン例

これは 目標ではなく、
手段！

Association

生活全般の解決すべき課題	目標			
	長期	期間	短期	期間
清潔を保持したい	通所介護利用により入浴できる	6ヶ月	通所介護に利用に慣れる	3ヶ月

見直し

生活全般の解決すべき課題	目標			
	長期	期間	短期	期間
片麻痺による歩行不安定 (転倒を繰り返す、浴槽の跨ぎができない)	浴槽の跨ぎ動作が一人でできる	6ヶ月	介助者の体を支える介助により跨ぎ動作ができる	3ヶ月
右片麻痺による上肢の動作に制限 (身体を洗う、着替えをすることが困難)	洗体動作が自立できる	6ヶ月	着替えの動作が自立できる	3ヶ月
脳梗塞を2度再発している	塩分1日6g以下の食事ができる	6ヶ月	栄養士の指導に沿った食事を覚える	3ヶ月

自立支援型ケアプラン例

通所で入浴することのみが目的になっているサービス

援助内容			
サービス内容	サービス種別	頻度	期間
清潔保持ができるよう、通所介護で入浴しましょう。できるだけ自分で洗えるところは自分で洗い、背中などは手伝ってもらいましょう。	通所介護	週2回	6ヶ月

見直し

援助内容			
サービス内容	サービス種別	頻度	期間
足を持ち上げる動作、 麻痺側と健側の足の使い方指導 を行い、またぐ動作が自立できるよう指導する。その際、自宅の浴槽の環境にも注意し、必要であれば手すりの設置や改善も検討します	通所介護	週2回	6ヶ月
体を洗う動作、背中や足指が届かず洗えません。 健側の運動域を拡大 できる指導、実際の動作指導、必要であれば道具の工夫などの指導も行います	通所介護 訪問リハビリ	週2回 月2回	6ヶ月 7

残存機能の活用！

自立支援型ケアプランとは？

サービスを入れることが
目的化しているケアプラン



課題を解決する(改善する)ことを
目的とするケアプラン

考え方がとても「リハビリ的」



ケアマネと理学療法士の課題がすべて共通することはありません。

- 理学療法士の分からない生活があり
- ケアマネの分からない運動機能があります

理学療法士は生活の理解が不十分であることを認知した上で、理学療法士としての意見を伝える必要があります

ケアマネのサポートが仕事です



ま と め

- 脳卒中とパーキンソン病(難病)の病態から予後の相違
- 短下肢装具に関する知識(種類・製作)と
対応の注意点
- リハビリテーションを提供する病院の病棟紹介
- 症例に学ぶ連携のあり方
- 医療・介護連携を行う上で、自立支援とICFをもとに
リハビリテーションを考えて行く